

“がん”を知り、“がん”と向き合い、“がん対策”に前向きになるために

がん対策のススメ 2018

Dr.中川のがん通信 vol.2

今年も行こう
がん検診

社員とその家族のために
会社が始めるがん対策

日本は2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなる世界トップクラスのがん大国です。

がんの6割が治る今、がんを抱えながら働く人も増えています。

これから一緒に、がんについて学んでいきましょう！

ぜひ、あなたの大事なご家族や、職場のみなさんと読んでみてください。

【男女での傾向の違い】

こんにちは。がん対策推進企業アクション アドバイザリーボード議長の中川恵一です。

私たちの体内で発生するがん細胞の数は、遺伝子の「経年劣化」により、年齢とともに増えていきます。同時に、がん細胞を監視する免疫の働きも加齢によって衰えます。この結果、年齢とともに、がん罹患する人の数は増えていきます。一言で言えば、がんは「老化」と言えます。

がんは年齢とともに急激に増えますが、また、男

性に多い病気でもあります。2016年にがんで死亡した人は372,986人（男性219,785人、女性153,201人）で、2013年に新たに診断されたがんは862,452例（男性498,720例、女性363,732例）でした。死亡数では男性が女性の1.43倍、罹患数では1.37倍となります。この理由は、がんの原因の半分以上が生活習慣によるもので、喫煙も飲酒も運動不足も、男性に多いことが「がんの男女差」の主な原因と言えます。



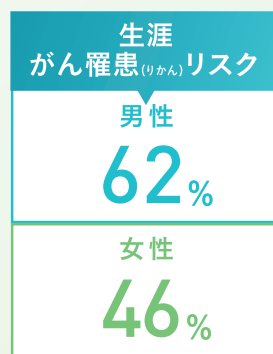
男性：約57.6万人
1位：胃がん 2位：肺がん 3位：前立腺がん
女性：約43.8万人
1位：乳がん 2位：大腸がん 3位：胃がん

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
「がん登録・統計」2017がん統計予測



男性：約22.0万人
女性：約15.3万人

出典：厚生労働省「平成28年(2016)人口動態統計」



日本人の2人に1人が
がんになる

出典：国立がん研究センターがん情報サービス
(2013年データに基づく)



男性：約87.6万人
女性：約75.0万人

出典：厚生労働省「平成26年患者調査」
(2014年10月調査日現在)

がんの主な要因



しかし、実は54歳まではがん患者の数は男性より女性に多いのです。55歳で男性が女性を上回り、年齢ともに急激に増えていきますから、全体では男性が多いのですが、30代に限れば、女性のがん患者の数は、男性の3倍近くにも上ります。

これは、女性の「二大がん」である乳がんと子宮頸がんが若い世代に多いことが理由です。乳がんは40代、子宮頸がんは30代が発症のピークなのです。

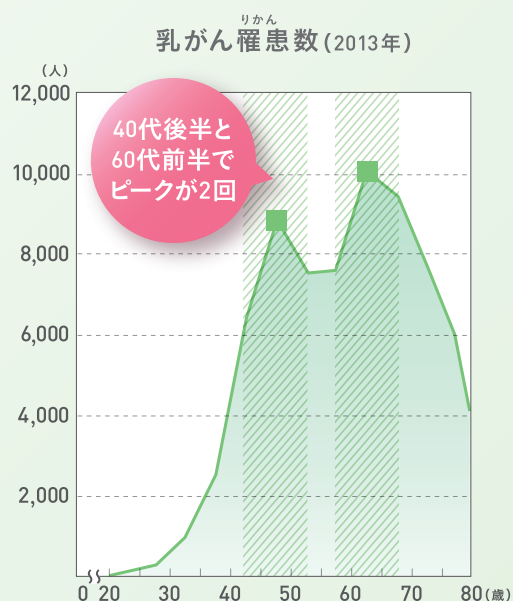
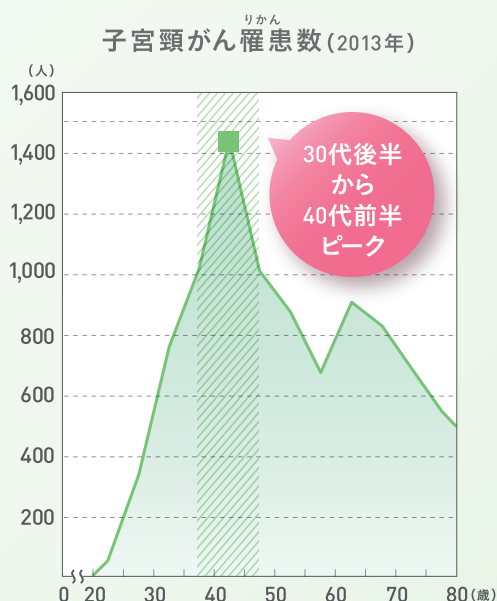
乳がんは前立腺がんとともに、性ホルモンの刺激で増殖するがんです。実際、進行した乳がんや前立腺がんでは、女性ホルモン、男性ホルモンの分泌を抑える「ホルモン療法」が行われます。

そして、男性の場合、高齢になっても男性ホルモンが出続けますから、前立腺がんは年齢とともに増加します。一方、女性では50歳過ぎで閉経を迎え、女性ホルモンの分泌が止まって増殖刺激がなくなりますから、40代の後半にピークがきます。

子宮頸がんは、性交渉による「ヒトパピローマウイルス」の感染が原因になります。もっとも、女性の7割以上が一度は感染経験を持つごくありふれたウイルスですが、感染経験がなければ子宮頸がんは発症しません（処女の女性にはまず発生しません）。今、性体験の低年齢化とともに、好発年齢が若くなっており、今や30代がピークで、20代にも急増しています。女性は、若い頃からがんに備えておく必要があるのです。

一方、男性は50代から急激にがんが増えていきます。65歳までに6~7人に1人が、がんになりますが、75歳まででは、3人に1人、そして、生涯では3人に2人近くが罹患します。もはや、がんになることを想定した人生設計が必要と言えるでしょう。

女性の社会進出と定年延長は会社員のがんを増やします。職域でのがん対策が重要となる理由をご理解頂けると幸いです。



※子宮頸部、乳房ともに上皮がんを含まない 出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」



中川 恵一 (がん対策推進企業アクション アドバイザリーボード議長)

東京大学医学部附属病院 放射線科准教授、厚生労働省 がん等における緩和ケアの更なる推進に関する検討会委員、文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会委員

東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室専任講師、などを経て、現職。緩和ケア診療部長、放射線治療部門長を歴任。著作には「がんのひみつ」などがんに関する著書多数。日本経済新聞でコラム「がん社会を診る」を連載中。